

自分の目で見て

那覇市立首里高等学校 三年 宮 平 さくら

「戦争のつくり方」この動画に私は釘付けになった。「この国が戦争へ近づいていくのではないか。」と考えた人々によって、まず絵本が制作された。これを広く伝えるため、終戦七〇周年を記念しアニメーションとして映像化したのがこの動画である。約七分三〇秒という決して長くはない動画だった。

「あなたは戦争がどういうものか、知っていますか。」という素朴な問いかけから始まる。小学生でも理解できる程度の易しい言葉で、戦争をしないと決めた日本が、戦争出来る国になるまでの過程が流れた。そして、「国の仕組みや決まりを少しずつ変えていけば、戦争をしないと決めていた国も、戦争が出来るようになります。」、「人の命が世の中で一番大切だと今まで教わってきたのは間違いになりました。一番大切なのは、国になったのです。」と続き、戦争が起こること、憲法、教育、経済、マスメディアなどあらゆる面から国全体が変化していくことなどが描かれていた。

この動画を見て私はゾツとした。なぜなら、今日本がこの通りの過程を進んでいるかもしれないと感じたからだ。

戦争をしてはいけないと多くの人は思っている。過去の戦争でも、万が一戦争が始まることになったとしても、誰かが止めてくれるだろうと心のどこかで思っていたのではないか。戦争は絶対にいけないことであり、未来の平和な世界をつくっていくのは、これからを背負う君たちだと学校や地域から習ってきた。

私はこれまで何度か、祖父から戦争の体験話を聞いたことがある。この動画を見た時、祖父の話を思い出した。普通に毎日を過ごしていて、はっと気がついた時には戦争の真っ最中にいて、もうどうすることも出来なかった。祖父は私に話していた。その時、それを聞いた私は、祖父のその言葉に、当時は祖父も幼かったから仕方なかったとしか思わず、深くは考えていなかった。

戦争というのは、「はい、今日から戦争始めますよ」とある日突然始まるものではなく、私たちが気付かないうちに、少しずつ始まっているものだというメッセージをこの動画は発していた。私はこの動画を見てようやく祖父の言葉の意味を理解した。そして、その動画は「私たちは未来をつくりだすことが出来ます。戦争をしない方法を選び取ることも。」という言葉で閉じられていた。この動画は日本の一つの未来像であり、私に未来に無責任になる恐ろしさを教えてくれた。

どれだけ話を聞いても、写真を見ても、戦争の本当の苦しみや辛さは体験しないと分からないことの方が多いと思う。しかし、私たちに出来ることは必ずあるはずだ。

例えば今年、選挙権年齢が引き下げられ、十八歳で投票出来るようになった。戦争を始めると決めるのは、戦争が出来る国にすることが出来る人は誰か。それは国であり、政治家である。しかし、考えてみて欲しい。政治家とは私たちが選挙によって決めることが出来るリーダーだ。私たちは国のリーダーを決めることが出来る。一人ひとりがどういった姿勢で向き合っていくべきか考える必要がある。

このように近年、法律が少しずつ変わってきている。そうして法律が変わったことでこれから何がどう変化し、何が起こるのか私には分からず、恐い。だからこそ、今起こっていることに興味関心を持ち、今この日本そして世界がどこに向かっているのか、私たちは学ばなければならない。なぜ戦争が起こるのか。なぜ戦争をやってはいけないという考えを持っている人は沢山いるのに世界では戦争がなくならないのか。私たちは考えなければならぬ。戦争をすること、何が生み出され、何が奪われるのか。

終戦して約七〇年がたった今、戦争を体験した人は圧倒的に少ない。私は戦争への危機感がだんだんと薄くなっているような気がしてならない。忘れてはいけない。今あるこの日常は当たり前ではなく、多くの犠牲の上にあるということ。戦争を知らない世代である私たちの責任感の無さから、次の世代に戦争がある未来を作らないために。平和な日本をずっと先の世代まで引き継ぐことが出来るように。今この日本、そして世界がどこに向かっているのか自分の目でしっかり見極められる人になりたい。私たちが、戦争をしない方法を選び取るために。